

22/11/18 に開催された特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議
石垣・埋蔵文化財部会（第 52 回）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

14:00

鈴木保存整備室長：はじめる

上田所長：11 月後半 あと 1 か月少し
年度内 関連事業も大詰め
一つ一つ重要な課題
ご助言を頂戴して今年度できる限り進めたい

鈴木：出席者紹介
北垣、赤羽、宮武、梶原
欠席：千田・西形
教育委員会、名古屋城
資料確認

北垣：議題 1

村木副センター長：不明門北土橋石垣根石発掘調査
鵜の首調査をした
同じような狭くなっている不明門北土橋を調査した
西、東に石垣
東は状態が悪くないと判断
西側発掘調査 オルソ写真 濃尾地震後に崩壊して積み替えた
日程は厳しいが、現状変更手続き 年度内に調査を終えたい

北垣：意見は
日程は厳しい
年度内にはしたい

宮武：質問 過去に実施したレーダー探査は 反応がなかった？

村木：石垣面 下端
左面 地面のところ及んでいない 根石の状況が分かっていない

宮武：こっちの面 東側 石垣のラインは反応があった？

村木：想定

宮武：反応がない？

村木：やってない

宮武：やっても反応がある→水がある

村木：反応があるかわからない
対象にしていない

宮武：盛り土？芯がある？

村木：読みにくい
総栗の可能性 土砂交じりの土がある可能性も

宮武：あいまいな書き方 調査の書き方をはっきり
土橋石垣→土橋そのものが安定しているか
極端な話、石垣崩れても、上を歩いている人が大丈夫ならよい
上端部がつぼんでいる
下が堅牢か
濃尾地震で積み替えた えらいことになっている
土橋自体が危ないかはまた別
中が密なら石垣が崩れても深刻にはならない
鵜の首と違うのは、台地の縁辺ギリギリ
ここは堀をえぐっている 地山が残っている可能性
最初天守台回り調査 3ページの図 入隅を掘ってないか？

村木：2か所掘った

宮武：横断する 並んで土層が出る可能性
・石垣の面自体
・土橋自体の安定性
両方

村木：埋めて作っている土橋だと思う
検討したい

北垣：ほかは

赤羽：内堀調査の時に調査やった
結果に基づいて調査区をだぶらないように
計画に、以前の発掘調査区を明記すべき
「だからここに設定した」
位置関係だけでなく、遺構の関係も

村木：今回設定した
レーダー探査の側線を優先した
申し訳ない

北垣：構造体なので、気にしないと

村木：検討して報告したい

梶原：特にない 広めでよい

北垣：位置は意見が出た
次の全体会議に報告してもらう
次 議題2 穴蔵石垣追加調査

14:22

名古屋城みやはし：調査成果
資料2 図2 調査区拡張 石列の延長①⑤
良好に残存
モルタル除去→図3 石垣下から再建時工事土確認
図3 点線 近世にさかのぼる可能性も
橋台調査 近代盛り土確認
図6
穴蔵石垣背面調査 図7
図13
遺構残存状況は確認できなかった→安全上やむを得ない
追加調査をしたい→石列の時期を確定したい

14:34

北垣：まとめ

村木：石垣面オルソ写真

取り外した部分と残っている部分がある

確実に外れている部分

2メートルくらい 外れているところを確定したい

宮武：不安定より確実なものを確定したいということでしょう

みやはし：はい

北垣：追加調査案 現場では話したが、

現場は入るのが大変 頭は上 這っていく

空気も悪い中調査

1ページ図3がオルソにあたる

みやはし：そう

北垣：なかなか入れない

黒く塗ってある石垣も参考にしたい

さらに必要になる

みやはし：そう

宮武：城郭調査 これまで劣悪調査は例がない

敬意を表したい

従来から「穴蔵には遺構が存在しない」

→石垣部会「証明すべき」 実は意外に残っていた ほぼ確定

年代を確定したい

層状は動かないだろう

構造物 時期的な不明 名古屋城時代のものとおよそ見えてきた

穴蔵全体 難しい

天守台をどう扱うか なんらかの形で扱わないと

橋台 石垣が残っているだけでなく、

図5 花崗岩

本物は凝灰岩

後で載せている その下に本物が残っている？ 埋戻し？

ボックスカルバートがくりぬいた横

層状を判別した

まだ残っているものが相当ありそうだ
方針は維持してほしい
図8, 9 裏栗調査
密度計算をしないのはなぜ？

みやはし：図8 栗石というよりは工事の廃土

宮武：これこそやっておいたほうがいい
オリジナルの裏栗ではない
西形先生とも話したが、背面が無茶苦茶
このありかたはめちゃくちゃ
木造にするのか、今の天守を残すかにかかわらず
南海トラフで持つのか
密度調査をすべき
どんな形にせよ、このままおいておいては危ない
いらなくなった土を入れている 栗ではない
近代工法での補強も考えないと
現状の大天守は危ない
4 ページ最後 トレンチ①
傷がつく可能性

みやはし：承知した

北垣：図3 裏栗がなく、砂地が混在
手当をしっかりとって
計器は必要ないか

宮武：守るべきは下の石
全体を補強したがために下が傷んではダメ
モニタリングはどちらをするのか

みやはし：石列を優先してモニタリングする

北垣：いくつか意見が出た
なお西形委員と相談して工学的な対策も必要ではないか
十分意見が出尽くしたかどうか分からないが、大事な意見
全体会議に報告して
3時で休憩を

鈴木：10分程度休憩 15：05まで
14：53

15：04

北垣：時間が来たので再開

鈴木：2題報告
搦め手馬出修復

名古屋城：本丸搦手馬出周辺石垣の修復について
境門跡周辺発掘調査成果

15：04

北垣：検討が続く

梶原：見に行けなくて申し訳ない
写真9
写真10

名古屋城：下が石が小さい

梶原：写真2
ありがとう

宮武：地形傾斜 こっちに向かって上がっている
手前の生活面は？

名古屋城：下は固くしまった

宮武：1号遺構はどこ

名古屋城：ここ

宮武：馬出の中に入る方法 フラットではない
上がっていくのが普通
石段やスロープのことも
レベルを丁寧に拾って

両方から上がって登る可能性も
理屈的にはおかしくない
1号遺構 引き抜いた後にいれたと決めつけなくてもいい
写真9 玉砂利はなにか

名古屋城：ここのほかにもある

宮武：左右は

名古屋城：左右はなかった

宮武：意図がある

引き抜いたあとに叩き込んだらこういうものは出てこない
選択肢として検討して
千田先生来ていたら怒っていた 平面図を出さないと
遺構の平面図 写真出さないとわからない
全体の調査区、主だった遺構図
柱の穴かどうかはわからない
暗渠は整備の対象から考えなくていいのか
名古屋城の遺構から外れる
門の跡 プレミアムが付く
門の位置を表示するとか

北垣：ほかには

平面図はつけて 次回よろしく
この件は意見をいただいた

15:24

鈴木：2つ目 西之丸米蔵

さかい学芸員：西之丸米蔵調査について

六番御蔵 位置が確定した
一番御蔵 位置の推定が可能に
二番、五番御蔵 確認できなかった
資料3 ページ 写真2-3
資料4 ページ 図3-4
資料5 ページ 資料4-2水道(みずみち)
J区 確認できなかった

15:34

北垣：意見は

宮武：整備・修景

整備すべきもの、すべきでないもの

3ページ 写真2-2

たたき、瓦敷き、盛り土 時期差はあるのか

さかい：一連の遺構と考える

宮武：左右で挟む

たたきが蔵の外？

さかい：そう

宮武：水路は切っている？

さかい：同時期

宮武：近代水路と同じ時期？

さかい：どういう遺構かは類例を調べないと

宮武：名古屋城の遺構ではない可能性

6尺3寸

地覆石を外したために調査開始

一致はしない？

さかい：礎石自体は掘り方がない

布堀りをしたとき

宮武：

さかい：あるいは地覆があったところを入れ替えた？

当時の構築した面は削られている可能性

当初から

宮武：六番御蔵 どこを表示すべきか検討
5 ページ 二番御蔵
緑色は近代建物の基礎抜き取り後？
載っている
パット見同じ
旧近世期の場所に近代期が乗った？

さかい：立っていた場所にあけられている

梶原：六番御蔵
ひさしと柱がずれている
類例がある？

鈴木：全体部会 ひさしの柱間隔が広いことが多い

梶原：近代は OK
工法が違う？

さかい：そう

梶原：一番御蔵 たたき
とまえはいつからあったのか？
近世？

さかい：近世からあったと考える
金城温故録にある

梶原：近代にもとまえがあった？

さかい：三瓦はない 時期は確定しない

梶原：なんらかの段階でとまえが外された

さかい：近代 溝が埋まっている

梶原：一番御蔵と六番御蔵 たたきは使い方は同じか？

さかい：たたきは近代

梶原：同じように見えるが、時代としては違う

さかい：違う

宮武：六番御蔵 最後にできたのか？

さかい：そう

宮武：一番御蔵 とまえは柱とあっている
六番御蔵 とまえとあわない
一緒に扱って大丈夫か？

さかい：六番御蔵 3 ページ 5 つの空間 とまえがある
ひさしの間隔はイレギュラーになる

宮武：母屋が先行してる可能性も

さかい：ある

宮武：修景 全部そろっていても、取り扱って
企画が違いすぎる
検討していくということか

鈴木：調査結果がでそろった
表示の仕方は全体会議に出す
六番御蔵で見つかった情報 具体的
次が一番御蔵 位置情報がわかった
二番、五番 位置情報すら得られていない

赤羽：原則的な話
発掘調査は現地の終わった段階
報告書を作成する
名古屋市は報告書作成がないがしろにされているところ
報告書作成終了をもって発掘調査終了
調査と修景を一緒にしないで
西之丸 年代差がある
どう説明するか 修景する

共有する時間を
今日のような発掘調査発表をもって調査終了は拙速

鈴木：調査としては現場が終わったら終了ではない
報告書完成で終了
整備は並行して進めていく
ほかの事業でも学術的な調査研究　ここで終わりではない
調査終わった後も続ける

北垣：それでいいか
非常に大事なところ
調査が済んだ
検討をしないといけない
報告書がでてもしょうがない

村木：考古学的なところは発掘調査が終わった
建物がどうだったかを報告書
それを整備にフィードバックしたい

北垣：現状としてはこうしたい
これで調査が終了したわけではない
全体会議に出される
これで終了ではない
発掘　担当者が頑張った
わかりにくい問題が残されている
ほかにあるか

宮武：不安になるのは、全体会議にあげる
石垣部会で出した結論をあげる
部会として結論を出すべき
結論の方向性　報告書作成で検討
名古屋城の時代とは違うものが同居
どれを修景するか十分検討して
江戸期の遺構　軍部時代の遺構
間違うと明治時代を表示してしまう可能性も

北垣：いろいろ経緯があった
部会としての現状

「あげたら終わりではない」

鈴木：確認の確認

遺構の評価として、今後整備に当たり江戸期のもの

明治期を線引き

幕末の表示するなら江戸期を表示すべき

明治期以降かどうか 部会として意見をいただいたうえでか？

宮武：わからないという回答 クリアしないと

土間、瓦敷き盛り土

近代水路と同じ 明治ですね？でいいのか

いつの時代 部会で結論付けるなら相当時間がかかる

いずれにしても見学者が誤解を招かないように

時代仕分けしてほしいのなら考える

鈴木：親会議とも相談する

北垣：繰り返さない

これで終わり

鈴木：2つ議題、2つ報告 熱心議論ありがとう

終わり

16:03

宮武：文化庁出してもらうようにして

オンライン会議もできる

そこら辺の調整もして

鈴木：適切にやる